

～大腸内視鏡検査及び、大腸ポリープ切除術に関する説明書～

検査目的

大腸にできる病気（炎症、潰瘍、ポリープ、がんなど）を見つけ、適切な治療方針を考えるために行います。

検査方法

検査3日前より食事調整を行い、検査当日朝から下剤を内服し、腸の中をきれいにして検査を行います。

内視鏡を肛門から挿入し、大腸の曲がった部分（S状結腸など）を通過する際に、大腸を膨らませながら隅々まで観察します。お腹が張ったり突っ張ったりすることがありますが、体の向きを替えたり、お腹を手で圧迫する等、出来るだけ苦痛のないよう工夫しながら内視鏡を挿入します。

注意事項

必要な場合は小さな組織を採取して（生検）、顕微鏡検査に提出します（病理組織検査）。

治療の必要のあるポリープは、その場で金属の輪を病変にかけて切除します。切除による痛みはありません。

傷口が広い場合は、クリップで塞ぎ、出血を予防します。傷が治ると1-2週間で自然に脱落し、便と一緒に出ます。

日帰りでポリープ切除できる条件

検査後2週間

①遠出（出張・旅行・行楽）の予定がない ②飲酒しない ③運動の制限が守れる

※以上の条件を満たしていないと、当院では日帰りのポリープ切除ができません

また、条件を満たしていてもポリープの種類によっては、当院では切除出来ない場合もあります

内服薬について

⇒ 内服薬の確認が出来ない場合は検査が行えません

血栓予防の薬や糖尿病の薬は服用に関して注意が必要です。お薬を服用中の方は、必ずお薬手帳を提出下さい。

抗血栓薬： _____ 糖尿病薬： _____

その他、朝食後に服用している薬は起床時に服用して下さい。

偶発症について

- ・腸管洗浄剤による穿孔
- ・抗コリン薬（ブスコパン）によるショック
- ・内視鏡操作による出血や穿孔 ⇒ 日本消化器内視鏡学会の調査によると頻度は0.004%。当院ではありません。万一、穿孔が発生した場合は外科的処置を含めた、最善の処置をいたします。
- ・ポリープ切除後出血 ⇒ 当院では約0.4%
抗血栓薬（バイアスピリン、パナルジンなど）内服中では、1.1%
万一、出血した場合は再度内視鏡を行い、止血します。
- ・ポリープ切除による穿孔 ⇒ 日本消化器内視鏡学会の調査によると頻度は約0.03%。当院ではありません。万一発生した場合は外科的処置を含めた、最善の処置をいたします。

鎮静剤について

呼吸抑制、血圧低下等の副作用があり、痛み止めではありません。

当院では苦痛が少ないよう工夫しながら検査を行っておりますので、鎮静剤の使用は約5%程度です。

感染対策について

当院では生検で用いる生検鉗子、ポリープを切除するときに用いる局注針、スネア（金属の輪）、対極板等全て使い捨て（ディスポーザブル）にし感染予防に努めています。

使用後の内視鏡は専用の機械で洗浄し、最も効果のある「過酢酸」を用いて消毒をしています。

「過酢酸」は全ての細菌、ウイルス、真菌、芽胞などの微生物を殺菌することができ、人体にも影響はありません。

説明日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

説明医師 石窪 力

補足説明者 _____

